

ぼくの得意技

小 六

「一度でいいから両耳が聞こえる一日があつたらな。」

ぼくは、左耳が聞こえません。そのことが理由で、

「右耳をふさいでみて。」

と、ふざけて言われたこともあります。正直いい気持ちはしません。それはわかってほしいです。しかし、これがぼくの自分らしさです。そんな言葉に負ける気も全くありません。

これまで、不便なことがたくさんありました。友達や先生の話が聞こえないこと。大切なことが聞こえず、思い通りにいかないことなどです。

しかし、左耳が聞こえないことは、ぼくのほこりです。たとえ周りの人達とちがうところがあるとしても、今の自分を大切にしたいです。何よりも、ぼくにはいいところがたくさんあります。そう言ってくれる友達もたくさんいます。

想像してみてください。自分の体の一部に不自由さがあつたとします。例えば、「ぼくのように片方耳が聞こえない。」「目が見えづらい。」「手や足が思うように動かない。」などいろいろあるかもしれせん。あなたがもしその立場だったらどうですか。何だか不安な気持ちになりませんか。そんな不安な気持ちをかかえながらも力強く生きていく人がたくさんいます。決して特別あつかいしてほしいというこ

とではありません。耳が聞こえないこととは関係ないので。それぞれに「個性」があるだけで、みんな公平なのです。

みんなの得意技は何ですか。友達や周りの人達の得意技を見つけれませんか。ぼくには、そんな強みを見つけてくれた仲間がいます。

「左耳が聞こえなくても、いいところがたくさんあるよ。」

今でもはっきりと覚えています。そして、これからもぼくを勇気付けてくれる言葉です。ぼくの周りには、「スポーツが得意な人」「歌が上手い人」「字がきれいな人」「誰にでも優しい人」「おもしろい人」など、きらきら光っている人達ばかりです。

ぼくの得意技は、相手のことを考え

て行動すること、相手を笑顔にすることです。みんなが笑っているところや喜んでいるところを見ると、とっても気持ちがよくあります。ぼくの家族も得意技を持っています。母は、いつも家族のことを第一に考えてくれます。父は、ぼくがやりたいと言ったことをいつも応援してくれます。兄は、英語がとっても得意です。弟は、話をするのが大好きで、友達もたくさんいます。こんな風にいいところを思い浮かべていると、何だか心が温かくなってきました。

悪口を言うことは気持ちがいいですか。ぼくは、これから出会う人達の良いところをたくさん見つけていきたいです。そして伝えていきます。みんなの得意技でかがやく社会を想像すると、

何だかわくわくしてきませんか。

あなたにも必ず、きらっと光る得意技があります。

ぼくの得意技は、

「人を笑顔にすることです。」